世說紀談

二

ロ 9
3558
2

15
473
2
9
3558
2

兒談卷之二

呂氏

呂氏情欲曰天人を生して貪事あり欲所あるあり。欲有情。情有節聖人その節を制するあり。故に其情欲の乃ほどよろしきすぎざるなり。耳は聲を欲し目は色を欲し口は味を欲し体は安を欲し情は利を欲し三つ乃ちこれは貴賤愚智賢不肖のこゝを欲

もるといいけれども神農黄帝はいえども
ろ稚築紂とおれど聖人乃ちとなることを
真情を得たる形ほどよく貴にさえ多情を
うるものは築紂なり。生しゝ動くものは情有り
是を貴しとするなり所以を情のおどろきを
うるなる生動をもしゝとをざれを真情を失ふ
なり比干乃胸を七穴ありといひて見をさき
此国の武烈生肌をぬき芋紙ありをありのぶ

をくこれを射ぬとし。はら孕を殺を考ちなさ
紂ゞ炮烙の刑など皆真情を失ふ是生動を貴
ふあらばるを由と不由とのこの二つは配生存亡のか
なり俗主い情欲厭き倦れゞ動く度毎よりび
敗ふくこれをもとれり。ろ稚耳は聴べうゞ目は
厭ぶうゞ口は篇づうゞ。おのこの二つは人間むべな
乃欲をほしいまゝにきいむるとれは府といふ疾は
疾は種とゆふ首は疾はいるはちをあうゞ筋骨

を沈滯して血脈ぬくぐ壅塞して四らぢを
ば九竅乃職を失ひ百骸くぐ紙と虚怯
ふなりうく。そのおどよ紙をうるひ法ぬみ其性
を害もるころ形り是彭祖ありといつぐも。ゐ紙
あ色をよく化さ世ふこと人ざる色ふ情の
物紙思ふくこれをゆざ色ばゝ欲とるもこ紙なり
色ふ世ふこるゐ物ざ求ふ事紙ゐこと是大
ふ生乃ち紙失ふ形り民人の怨謗を生じ大

雖を機ふふいる色で意氣も新さのこ一躋紙と
して加さうざふ。まこ其寵奬さるものを大
なる勢ひありとおひ。ち色紙ゐのこ新り毒。その
紙ゐころをいみしと尚ひこづこ智なりとゆひ
其絢中に欺詐ありこく暴虐をゆふこ紙ちう
ざして紙民ゆもひて悪患をれこるのふと云
ぐづこ紙い佑主乃ほねなり是德義を援ゐ
邪利の色といひく於ゐの身をのづこ困窮さる

ありぬべくありていらぬほど後悔をとるともあぶなくなり
ん巧偽乃ちの近づき端直ものさをざうふ
何者国家大ふ危しく危ありいらりてなとの
あやはちをいるほど物るもの事ある毎ごふ
危敗滅亡乃いるをうとふを聞くはちふ驚る
ものいふ仁義を行ひしことをあらためんか
すべふよりをうす。是百病悪起く礼難
ぢちをぬ有いる形うをを恥むの道ふなく

ぢをで甚君乃身かをあらずを大ふ義をるを形う
ぬる耳の変ををの味を。目は色を多れまば
は乃味をあるんぢぬふ死るものと擇ふる色
いふ色のよくを紙うふ人ふ道紙殺して欲有
過不及をくたぐ天有象られぢをの人ふ福
ををあるゆへかをるず壽長有ものを生紙金して
絶りをる声色滋味紙よく久しを楽しを世者
奚故ゆうを定を論ををいえう早定をををの

きざしなきが如く其志ある者は天下かれひ
人は順なり道を体する人はあらざるなく
志り強きを知るべきなり〜早起を論じ多
いまだ早醤を志るとなりつゝ醤といふものは仁愛
を知るなり紙なく知るなり。是を志るとは生紙
作りさるの精神を思ひてこれを竭し先ふ多
まづ天の海ふ生紙をふるのこそれ秋なく
さむ春なれば冬うすび煙なり春わらく雨海法

ふきは裏ふ形ぐ変早を。天地もな紙ふるものを紙
もる事ふのさびを志る所をいろんや人ふ生をやを人
乃を地と同ぐきは如ものをよくするとあるべき所
なるを萬物乃象をその情紙美にを形をいえ芸
真情活生紙如んぐ死を愚むい一体なり故ふ
いめ〜の別を活死天下を形さむるの人を必
天地ふ法ふなりる紙作りを酌るものおをき附
いさるゝゆふ盡万物を大貴作ちくを如んぐ多

生るの多しかいふ故ゆきみの生い常に早く
歯堅く美髪あるをそなむのこれなり故に海とその
生産損し多く下乃人をたすけれども法ぬ有
みづから其損をること紙ちばかり切ゆ
賊といつて毎生内外鬱をいい耳も聽ゆること。因
も稱るづからずはも食ふ物ならず食といつて是より
して乱をなどをる法と人欲を制し一身其欲を
道ふよりし免名紙ゆく世外無名を好くを

いむふ道くをいい天下治ふ。ゆうう稱為欲曰
人有欲なりしうぐ天子とある紙えても輿隷
と同じ思ひ紙角のうをくを立錐乃地
るをとれなくなひ彭祖ゆ壽紙見ゆも殤ふ
同じくえ法なるん天子ハ至貴也天乃紙ゆうの
ハ至富也八百歳ハ至壽那りゆいつも人をを
むふかうずまを輿隷ハ玉職なり錐紙角つふ
乃地なるハ玉貧なる利九歳ふゆうびしく死

さるは玉天あり去るも禁しゐ忌有たゝんに
以て人に欲さることゝ知の道だにて賞をえらく去
をなりひ疑紙えらく摩とう其たんぐう先紙清
わんとおもくく身を法くしむく禄義教道有
よ法ゆ迄きハ后乃情るう是をとて君后義
あるてゝ形り人幸みるめくれでゝ欲をれ附き
をくハ生紙得つて穿甲で世者人乃いゆ世欲
ハ寡の欲をほどよくし情欲ゆ則ゆ道ばる

おちゝ法てゝゆ欲なれがおとゝ云欲といふもれうし
その欲乃過るゆと形るは人者ゝとれたり
世乃人これを欲あり必のふ。ゆ道上智ハ道なるが
でゝく大欲ハ世欲ばおゝし小智ハ智ありとゝく
小欲ハ欲ゆりとゝ云。ゆう禄小欲とハ我が身の安
玉紙ゆひ家人をりと禄家が寡世紙おゝと寡
く人乃換失をゆりこゝをすで五天の身と九
穀の職を有紙有なるんと欲ゆるこれ一身乃

欲小欲ありて大欲いまだ我身も見ず人ありてほとこと
を事なしむを欲し多利を見てわれ多利を
なり故に上智者大欲也我情欲を制して
天下の廣きを及しく民にえらばれの多くら
を求えしらば我めざ稽で爭ふてもれく太平の
治を形してその身は天下乃至富有居る大欲
あ〻さを禁討いて一身は欲を邪ふ玉悪と
なる此國乃武烈あるいはあるこの及すべ

乃至民のあくむ死を樂とし暴虐をもく民を
使し我勢あり。民乃むくことなさいとおそりて
ないとぐものせてと仁人乃民は樂を毋の
民を道によらしむる我勢とを。おりむ貧は水災
自然悪といでも心にたのことを仁人も禁討も
一のごとまま情欲はすれそしむべし性欲者
上人といえど無。をもおそとあべし性欲とは衣
食居住ありこの四の華美を欲るは情欲也

欲を制し身を表正むべしとはその外欲をもるは
上人といえども無制をもるべからざるなり此三つの上
人をいいつぐも山むべしとは釋氏の道に遵る様の
衣を取く法衣を市中の道を修をもて要
しとく幽山乃岳紙をもて法ぬ元下の
愚民を導く釋氏乃外導くは大欲あり
金銭欲をもて世間を中なる外なるもの
食を欲るあく銭財をば道をもむる外至

ふ外すぐ生銭身のつとあるべし特去の欲者
はことに明らかなる。又凡人は常人乃いむところ
乃にあるまず生の衣は世人の志ところ是を
外く欲る身を身を釋氏は過智なり。法を滅
を止ものく情欲の者ふ「外」欲と人外系
して釋氏を素子あり。ものを形髮は分れ氏なり
是を始て身を欲をれ欲をれを去免す
死人乃いむところ生人情ものを欲は外

てく生て世ゑうく思ひ我ゞ生を法これしと云
ゑ世ゑ乃ゑ〳〵今の世ゑ繁昌を歎て天地の
間佛道なき地なし世欲おしていみく見
ゆゑ〳〵詐由菓文といつゞ無なゑ衣食居活の性
欲なゑてこれ。文生天下も棄生道もなて。
世ゑ道れしい欲なしゆゑ穢。る世天下をさ
ざけんと言ふをゆゑく我ゞ意無ゆゑ〳〵。再世
おゝひゝ〳〵菓文牛ゑ下流ゑ牽も汚生と思ひて

上流ゆゑ。二ゑも生くをんとゑの欲有。まる
瓶い拵ゞ〳〵ゆゑ掬して飲乃欲ゆゑ〳〵。
欲ゑといつゞ石ゑ水れゑ〳〵ゆゑ此二ゑい上智
を及ぶゞゑ。故ゑ古今二ゑゆゑる世紙人是
ゑ近〳〵ゆゑ。真道といふの欲ゑそれゑもれ
釈氏乃ゑい是不宵な世家〳〵ゆゑ故ゆ世く甚
しくゑを称ゞ佛。ゑ世。ゑ穢。衣食居活を釈氏
乃教のごく天下ゑ人結守ゑゑ世ゑ釋氏の道

滅ぼし。淫あり。爭人生ず。故に僧出ず。僧の本を
淫あり。釋氏是を一向に制禁するに制禁して
ほぐよくなりんと思ひ法をかへ。是曲に成直
ばんとくに出るごとし。世乃人實に志ん
し爭はさなく守るは本成撓れ易くれる
ばかりし釋氏過智乃矣多し

見談卷之三終

見談卷之三

名利

世乃人學問を好むこの方に一二人出て名成
ちこゝろのの百万人一あるなり故に名の盛
なる傷者世くなほてとくれし名利を
ゆるはさるしいつゝ。名利をよく求ふいよ
し。世人名利を欲し爭道りかるふある
盗跖名利を先ひとく人道を亡ぼり故に

紫蹈と世より謂く要ずしさいの法度をもて
多くの名利を欲し奪ひ合ひ奢侈に流るるも亦稍
より出故に名利乃欲おもてあらば衣食居遊
のよくを過邪ありて其準則を失して鳥
獸にいたる。世乃人名利を欲しく法なれ
い吾身かくるかぎもなく以為といつべし。九代
前八十万石みく何ぞ此国小居城一家り
少しおとる。こく五代以前も二十万石みく何

世乃国有居城穿しが大敵に圍まれく滅亡
しう故にかくいやしくもちれしなど以ていえり法さ
なし。世君盛衰を天の寒暑にたぐらといつも
を将の采幣によりて移り是吾が系圖に
一家といんこく先祖乃をぢをなくなとに以て
法なし。ぬ業氏なで古上乃英雄なし世君
人出ようあむにあらぐやの人をなりあり
為まづしきい蔑しき文の中よりおくその功此

世乃一人なり。孫子兵法を著はすのみにあらずして、孫臏氏のいまだ未だ書なき見ちかてられく多なれども学び給ふ事。ちかれども三略をよみをとれば。ゆゝしき英雄乃知恵うつ紙をつらずして其書人を誘ひ出づるといつり英雄れたる法ことを待節のおこり。こゝ様を書紙よりはゞ新の書をよむとゆふ事なり故ゆゑ繁にしてうくすいみづくゝ行ひ

多有徳となるあり。ゆゑをもてをくめひのよりく徳あるもはなさるゝ人。功あるもの不賞無功ゆゑ善者も不善者となる。故ゆゑ性質乃無智賢不肖なり故曰善端は埋さるゝ利なるといふ。まゝ是ゆゑ培ひくいよく長ずるなり。技芸才ある人学問して徳成積無乃人ゆゑ通患ゆゑ学問して人皆重てゝ

神かいかる心乃を思ふ事多き事なり
いとゞ毋あり夫人紙いとゞ法ゝ者者ゝを
ゝ毋ゞ者の生れ得さ法智ふよりて学ふより
かゝさてゝ紙ゝゝ婦ゝ婦ゝ害ゝれてゝて
ゝゝゝゝゝゝゝゝ害れ者して者ゝかさと
をして者ゝゝゝ神武帝博学多才を
きゝと世下ゝて英雄ふゝゝ朝尊氏秀吉
博学なるゝ紙ゝ者ゝゝ乃ゝ法ふ中華

ゝくもいえゝゝゝかり島ゝ風風を稽ゝゝと歌
い禧禧を稽ゝゝゝと人ゝゝ英雄紙ゝ稽ゝする
乃ゝ好ゝ人ゝよく者紙ゝ人道ふけゝく其
功ゝゝゝゝゝゝゝ我ゝゝ人ゝのゝき男ゝ児
めゝゝいゝゝ夫ゝゝ人ゝゝゝゝ明世紙の風
恵と愛をゝて夫ゝを勧ゝ紙ゝ故ふ
ゝ世紙乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
二篇紙書ゝ紙ゝ世間ゝを児女のゝゝゝ夫

ものいふこと毎度ものいふたびにおれてものいふべし
漢乃袁章。鄭尚書に問ふ。ものしりが門
何ゆへ市をこしらへくなるや。數くいつぱが
門に市をこしらへるはゆめでもいそがしうて
あるいとまもなくふゆをしてあかさらふちをかくすまき
宝器の秘有ものふがくに学ぶ人と
のふあひく人をもちぐかくもつあそあらの
徳ぶりをれば門に市をこしらへ

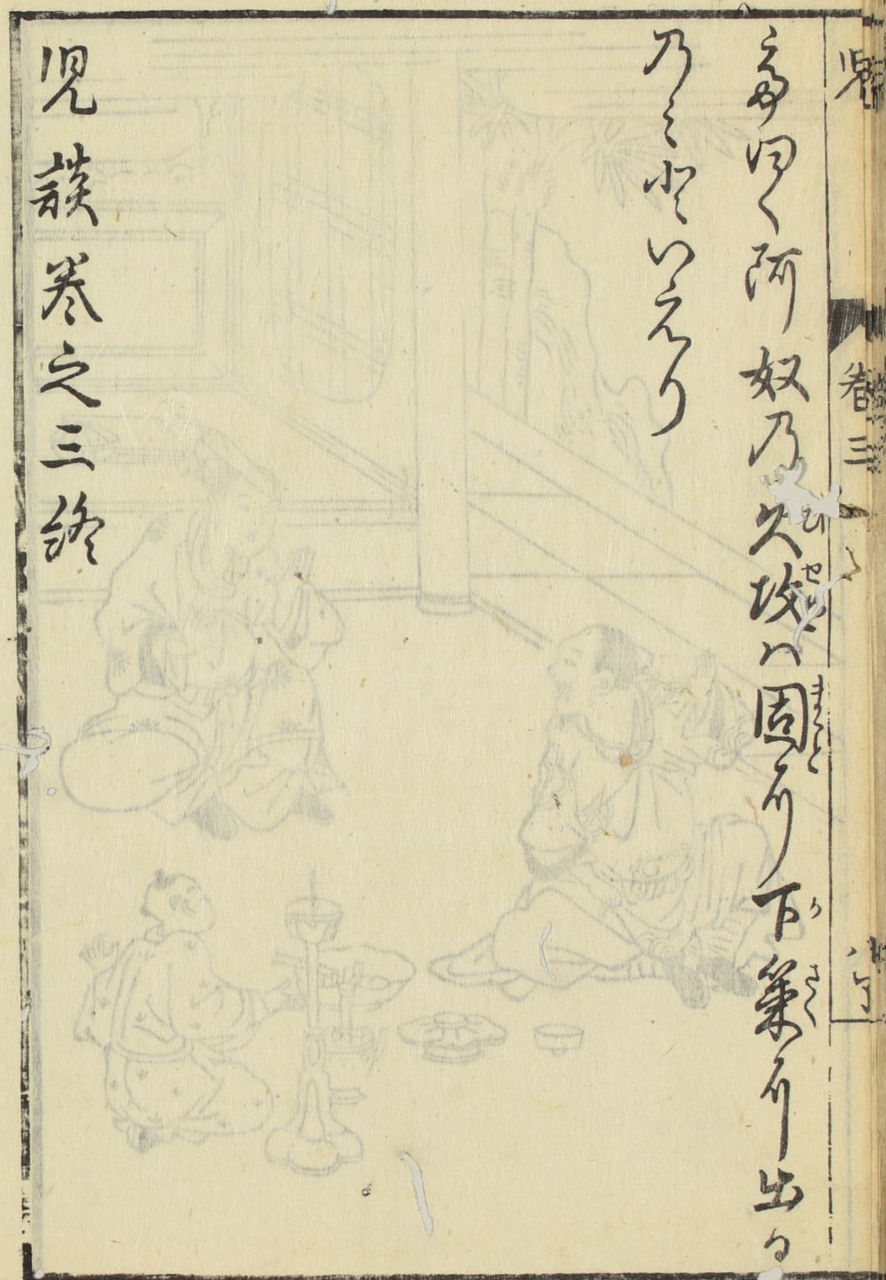
鄧艾は吃なり。ものいふこと。ことに普乃文をもちて
ふるまもしていつ。めなくいふこと。ものいふ。
艾で對くいつ。鳳や鳳や故ちれ一鳳といえり。仙人
孔子あるくぱんしるこばあくぱかさねてけるく鳳や
鳳やと云ふ吃りて艾くくこと云ひてあれ吾名一どころ
孫子荊年少くして隠居しんと欲して王武
子に語りて曰く海をふ石ふ枕し流れ漱ぐと
いふべきを語りてふ漱ぎ海ふ枕ちんといひ

五武子曰流れ枕をづくるゆゑ流ぐづるんや孫
子荆が曰く漱ぐ枕するい其耳を洗うと欲し
石ふ枕ぐい其歯を磨と欲するよし史智
あるを人るれば誤乃言葉もいやみぐら作り
耳を洗ふく許ゆふ云ふく歯をとぎて云
案いぐいたんとなり
顧悦と俞文ゆ曰年丹毒部悦髮蚤
曰号文が曰郡治のふとてつとより先

みのきたるくにく蒲柳く姿い秋みまく
蔦松柏乃貌い弱ゑ成つくいよく茂し
謝靈運ゆく曲柄の笠ゆ戴きろ孔隱
士が曰く鄉ゆ入ゆ高をみ希くとばなんで
也蓋ゆ貌を毎てるのさつざ法謝吳匡ろ
曰くまちみ新を異ざらんゆをる毎のい来。
情ゆわちめくてあつでといえり
陸羽張志和ゆ問の孰ゆ孰ゆ結ゆを

ふ志和がいつく志虛を富ゆ明月ゆ焉と
ゆ四海乃諸ゆと芸ふ處ろいまゞ嘗る毋
ゆもつれど仙ゆ付ゆ来ゆ来ろ来ゆ世
王介甫嘗く蜀ゆ峯ゆを見く芸ふ佛書
みゆ月ゆ炒光明佛と有炒ゆ光仙ゆみ月
ゆ配するゆ得んや呂吉甫曰く日ゆ晝
以昼ふ月い夜みゆ昼ゆ炒光い晝夜ふ昼
形利日月ゆ乃ゆ乃ゆ所其用差別ゆ小

ひくみ南大夫御ものとも
黄太史ぶ云く士大夫三日書なよ面ざれば名
理義胸中ふ交ぐ俗ら面貌語言乃味
ちなくて俗ふ無し
周仲智酒ふ飲ぐ破ひく目ふ睛志所ふ
ぞ一多伯仁ふ渇ふ男ぶ弟ふ志ぐて
横さ面ふ重名ふ功ゆるりおいひく須臾ふ
一多蠟燭の火を伯仁多ひ
撫ぐ伯仁多



奪回く阿奴乃久坂い国り下巣り出る
乃こ小いそう

児談巻之三終

児談巻之四

世説風惠

陳太丘友と約て共約速し亭日中を期し
く日中を過ども友なく約いそうぎと故小太丘
うの友を約束し亭待ども期しゆる日中小
いたりぶれば。太丘を棄てくさりぬ。をけちに
友い曰うをうを其子元方と元平年七歳なり
門乃外小戯ともうそびしが友来り元方小問ふ

李曰く尊君はいかりやいなや。答へて曰く君を待
てと久しゝれども来たらざる。笑太丘去る時き勞。
友まれいち怒りて曰く人子たるの形。人ゆく
行を期し李今あゝ来たらざる。元方が曰く君
は家乃君と日中約し李日中ゆいたらず
あゝ信なしまた子に少なして父を罵つる礼
なりといふ友慚ぢて車より下りて元方を引け
ども元方門内に入李顧ず

徐孺子年九歳乃ち月の下に戯れて遊ぶ
ある人あゝ問ふ汝父と友なりと曰く
しかり。客いよいよ極まりなし世や。徐
が曰く昔孔子と老聃と友なり
あゝなきこゝろ如何ぞといつて
黄子琰少して辯惠なり建和年中に日食
もれども京師ゆ見へざりしあり。子琰が祖太尉
状をとく上所にあゝと爲ち后詔しくば乃

食をとることを少しかたらひ給ふ太尉その對を
聞いたくぶかく況とて爲を志ざす。子孫年七歳
なりしが側に立て爲四くをんぞ食乃名かを
言ひ給ふを食を給ふ六月の初めつかたかいえり
孔文舉年十歳にして父に志ざしたがひて洛に至る
ましけ李元禮といふ人の名あり。司隷校尉
位なれども門に入るものを旨稽才あ
し者清称あり。及び中表乃親戚にあらず

我を世と李元禮と志ざすあるものかを
いひくあらすと者をり。元禮問ふて曰
君と僕と何乃親うあるや。文舉答へて曰先我
が先君仲尼と君の先人伯陽と師資乃親
ありてそれ僕と君と奕世すがを通ずるいを
なりとひ給ふ。元禮とよび賓客奇とおそ
るるを志ざくして後に中大夫陳韙と

いふものいとうすれいたち文挙が語をかうきれ
ど題が曰く小さき所了有る所に大人ふかうす
る事。かすべしも住なるてこれしやいひうり。文
挙が曰く想ふて君ハ小き時かるうざとあるを了
なるべしといひあれど達ひひふ歌消を。
況おくをれとは敬おうんどるてこれり。此国有
く神社仏閣すべふ七挙書八挙書と皆
を信。論るる乃事いとうふ事ふこんもたせかし

より甚子大人とうくく高名なるてこれし是
義事なりけれ得る老智をいよく大人有
ばうう事明るべし難ハ文挙が才智ハ如
くいふ難なまる事人すう数有文挙ハ
事難をたうくなる
孔融收られとく中外ふかべうすあるを怪怖し
あり所ふ孔融が児大るハ九挙小かるハ八歳
形り二児故孫針乃たいふ也てべなのさう

えられしてそれとそなたて遽宮ヲ動使者ハ謂
く曰く冀い死ぬ身に出り妻二児を全く遺
ふくまそれ得んやいるやいなれど児をそこく
ふく嬰巣之下にまさ完卵あんやといひて抱
られるまそなたの父死り産して子食れてえぐと
き来かくのごとくいるる童小ありて名紙ちう
張絶張儼朱異騎騎将軍朱據がとろふ
ちう三人曰ぐく驃官ノ名

誘ふ朱據この三人と誘うんが欲しく治
ふく曰ぐ。老邸ハ餓渇ちて墓し
ふ三人ハなるあうんと欲して欲ちう
驃嬢ち一日ハ千里ハゆれるの迅驃なる
かるる奮集いまでかく疾ありく我のゆ紙
るてあるちうれわるなハ各一物紙ちう
ハ驃一ちの後ハ入く産ちといひければ
三人皆朱據がかくいひ一日ハちうひて驃を

成しより朱穆は所以ひある利純ハ賦席ヲ
曰席以冬設簟為夏施揖讓而坐君子攸
宜儀賦曰守則有嚴出則有獲韓盧宋
鵲書名竹帛畏賦弩曰南嶽之幹鍾山之
銅應機命中獲隼高墉是より学問とも
も道を談するにはなりがたく徒ならんとも
いふじ身を欲すべし
何晏七歳にして明恵なるを神童といふ

魏武帝これを奇なりとし愛してまた是宮内
にありしにより子とせんと欲しけるが何晏
おのれ其地を畫して方となし其中に處人
もの問へをとひければ答て曰何氏の廬なり
といひきり魏武是を聞て我が子とすることを
やめて遂にかへしつかはしぬ
梁の國の楊氏が子九歳なりけるが
聰恵なり孔君平といふものその父の方に

いかりしが父在さず。是ふようて其児を呼く
果ごとりふ事くあるこつしが果梅梅なるもけるで
孔君まゆびさして曰く此い君ぐ家乃果るり
といふ児その声ふ意して曰くいまぎきろ爲
孔雀も君氏家の禽るるこ紙といつり児乃
家ハ妙楊な紙ど楊梅家ふ果りなの雀ぎ
孔君平も孔氏なり孔雀も君乃ろり称る
づ文ハ主ろ子事紙きろどと那り

王戒年七歳なるこれ諸乃小児と遊び来ふ
道の辺ふ李樹ふ多ありこなみ多くるり
ふれいふれれろりあく枝も折りたるる毒
ある紙着くり紙くの小児競くあるを子ん
くく走ろり唯王戒動うどしる毒遊びろり
人ろ紙をあ中て問ろれど戒答く曰く道辺の
樹ふてかくふ多きこれろ苦李なるを
いえり取くるれどはるして走ろ利

慈懐太子少して聰慧なり武帝甚愛し
給ふ六七歳乃ち宮中狡獪しあり武帝
樹下のぼりて失墜し給ふ侍従
帝衣服を牽て門中に入しめ免まふ。帝
うのゆへを問ひ給へば答て曰く暮夜
倉卒なりよろしく急死者あらば
ひく備ふることあるべし失の光に近くして
人を識しることあるべからざるなり況
曼

太子六歳にして孫道に逢ひ孫道
孫恭由 恭莊二人小き庾公がもとゝ
あり庾公乃ち問て曰く家君何ぞ
若く曰く家は恭由なり庾公乃曰く君小
もとゝ恭莊なんぞ答曰く許由に癩りんとす
といつて海さ一人有り問て曰く何の字ぞや答
て曰く恭由恭莊なり庾公はいつく何をか等ふ
きんとするや曰く莊周は所かくんと庾公曰

なんぞ仲尼をまさるや對て曰く聖人ハ
生知なり公慕ひぐるしはいづれぞ小児（ムニレナガラノチエ）
乃あさつ紙喜ぶなり
開元乃おほいぶハ佛道と孔子の教をよく言ふ
ものを禁中にあつめむひたひたまへしむるの附
員俶といふものあり年九歳にしてそのおぼえ
乃詞氣はやくによどみなく流るがごとし席にあるの
人々皆感じけり帝これをきこしめしてかの

いふはおよそ七歳にて員俶が意にまかせて傍にありしまんぢう
類ありのあらんや員俶跪奏して曰く臣俶
が舅乃子に李泌といふものあり帝すなはち（母ノ兄弟曰舅）
是をめしく入よとのり泌いまりて帝張説と
いふものはめいじ泌が能をこゝろみしむ
説すなはち方圓動靜の賦をこひて泌が曰
試みていはく説問て曰方若棋
局、圓若棋子、動若棋生、靜若棋死、泌

とれいら芸くゐく方若行義圓若用智
動若騁材靜若得意ゆえいえり
至元澤幼きはゆゑありて一獐一鹿を同じ籠ゆへ多
勢なる者ありて元澤に問ふ曰くいづれ獐
いばれ鹿ぞや元澤答へ此二物乃いるやを知
どぷく久悪して芸く曰く獐乃かさつのものい鹿
あり鹿乃ちさらものいい獐なりゆえいえり

兒談巻之四終